

来週の市場とレート予想

	10/2(月)	10/3(火)	10/4(水)	10/5(木)	10/6(金)
無担保O/N	△0.086% ~ 0.001%				
銀行券	+ 700	+ 1,000	ト ン	△ 1,000	△ 1,000
財政他	△ 10,700	△ 15,000	△ 25,000	+ 23,000	+ 1,000
資金需給	△ 10,000	△ 14,000	△ 25,000	+ 22,000	ト ン
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)		法人税・消費税・保険揚げ	国債発行・償還(10年)	
オペ期日	共通担保(全店) △ 4,300 CP等買入 △ 400 国債補完供給 + 3,900				
オペスタート	共通担保(全店) + 2,300	短国買入 + 7,500 国債買入 + 7,100			
(日本)	企業短期経済観測調査(9月短観)	企業の物価見通し(9月短観) マネターベース(9月) 基調的なインフレ率を捕捉するための指標 日銀の保有する国債の銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の銘柄別買入額	需給ギャップと潜在成長率		日銀営業毎旬報告(9月30日現在) 景気動向指数(8月)
(海外)	米 ISM製造業景況指数(9月) 米 グラス連銀総裁、講演 欧 ユーロ圏製造業PMI(9月改定値) 欧 ユーロ圏失業率(8月)	米パウエルFRB理事が規制改革イベントに参加 欧 ユーロ圏生産者物価指数(8月) 豪 政策金利発表	米 ADP雇用統計(9月) 米 ISM日製造業景況指数(9月) 米 イエレンFRB議長、講演	米 新規失業保険申請件数(30日終了週) 米 貿易収支(8月) 米パウエルFRB理事、講演 米 サンフランシスコ連銀総裁、講演 米 フィアデルフィア連銀総裁、講演 米 カンザスシティ連銀総裁、講演	米 雇用統計(9月) 米 ムーディーズ、米格付け発表 米 ニューヨーク連銀総裁、講演 米 グラス連銀総裁、講演 米 セントルイス連銀総裁、講演

【インターバンク市場】

<インターバンク>

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.035 ~ △0.045
SPOT 2M	△0.020 ~ 0.040
SPOT 3M	△0.015 ~ 0.050
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.080

日銀当座預金残高は週初371兆800億円から始まった。その後、短国・国債買入オペを主因にやや増加したが、週末には、財政等要因を主因に減少し369兆1,700億円となった。無担保コールON物の加重平均金利は25日~28日まで△0.048%~△0.042%で推移した。
また、四半期末越えとなる29日には調達を控える動きが見られ同金利は△0.063%まで低下した。
ターム物は9月末越えの1~2W物を中心に△0.015%~0%の取引が見られた。
日本銀行は29日に「当面の長期国債等の買入れ運営について」を公表し、国庫短期証券の10月末残高を23~25兆円程度とした。
来週は、国内では日銀短観(2日)と景気動向指数(6日)の公表があり、海外ではイエレンFRB議長の講演(4日)やECB議事要旨の公表(5日)が予定されている。

【オープン市場】

<CP>

CP3M(a-1+)	△0.01 ~ 0.000
TDB 3M	△0.20 ~ △0.15
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

今週の入札発行総額は約1兆7,000億円で、週間償還額の約3兆4,000億円(金融機関・ABCP除く)を大幅に下回った。一般事業法人が有利負債圧の削減需要から残高調整を行ったため、月末日の発行が7,000億円弱(償還額:2兆7,000億円程度)に止まった事が要因となっている。発行レートは、投資家のニーズが強く、依然としてマイナスから0%近辺での出合いであった。
来週の償還額は、約3,000億円となっている。一般事業法人は、中間期末明けの1日スタート分から積極的にCPを発行しており、来週も償還額以上の発行が予想される。5日に、CP等買入オペが3,000億円程度オファーされる予定。発行レートは、引き続きマイナスから0%近辺での推移が予想される。

<TDB>

9月28日に国庫短期証券3M711回債の入札は、前回債よりも需要が強く、最高落札レートは△0.1550%(前回債△0.1002%)、平均落札レートは△0.1652%(前回債△0.1074%)と、前回債から利回りは大きく低下した。セカンダリー市場は、3Mが△0.175%近辺での出合いであった。
来週は10月4日に6M、10月5日に3Mの入札が行われる予定である。

<レポ>

足許GCは週初△0.065%近辺の出合い。四半期末越えとなる29日受渡しは、△0.14%~△0.13%から始まったが、T/Nにかけてレートが上昇。△0.10%近辺の出合いも多く見られた。10月入り後の2日受渡しは△0.08%~△0.075%の水準。週末には国債・国庫短期証券買入オペが合計1兆4600億円オファーされ、△0.09%近辺に低下し越週した。SC取引では10年348回債のbidが週末の輪番オペ後増加。△0.40%~△0.35%近辺で多く取引された。20年162回債、30年56回債も週後半以降レートが低下。△0.40%台の出合いも一部見られた。その他2年375・378・379・380回債、5年130・131・132・133回債、10年336・341・342・343・346・347回債、20年161回債、30年55回債、40年10回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。